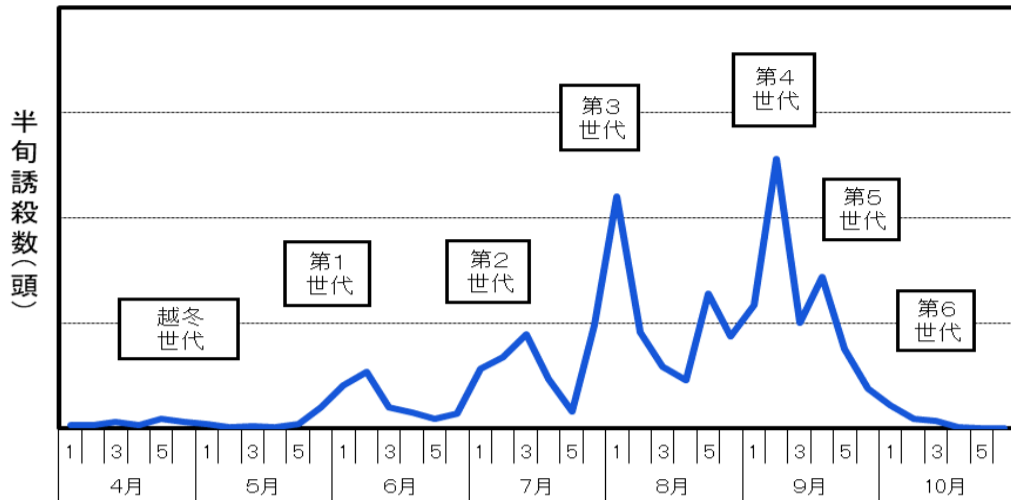


モモハモグリガのフェロモントラップ誘殺消長 [令和8年(2026年)調査]

病害虫防除部

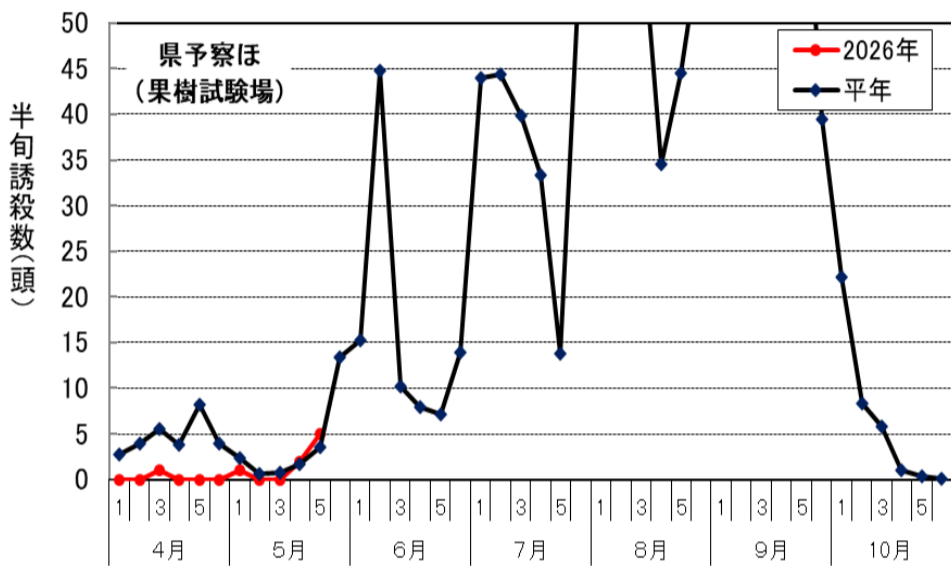
過去10年間の消長模式図(果樹試験場内 県予察ほ)



【発生生態と防除のポイント】

- ・年6～7回発生する。
- ・各世代成虫の発生最盛期は、越冬成虫が4月下旬、第1世代は6月上旬、第2世代は7月中旬、第3世代は8月上旬、第4世代は8月下旬、第5世代は9月下旬、第6世代は10月中旬頃である。
- ・寄生量は第3世代から急増し、第4、5世代は高密度となる。
- ・発生が多くなる第2～4世代の防除が重点になる。
- ・薬剤防除の目的は、主に幼虫による葉への食入防止である。

○県予察ほ(須坂市・果樹試験場)



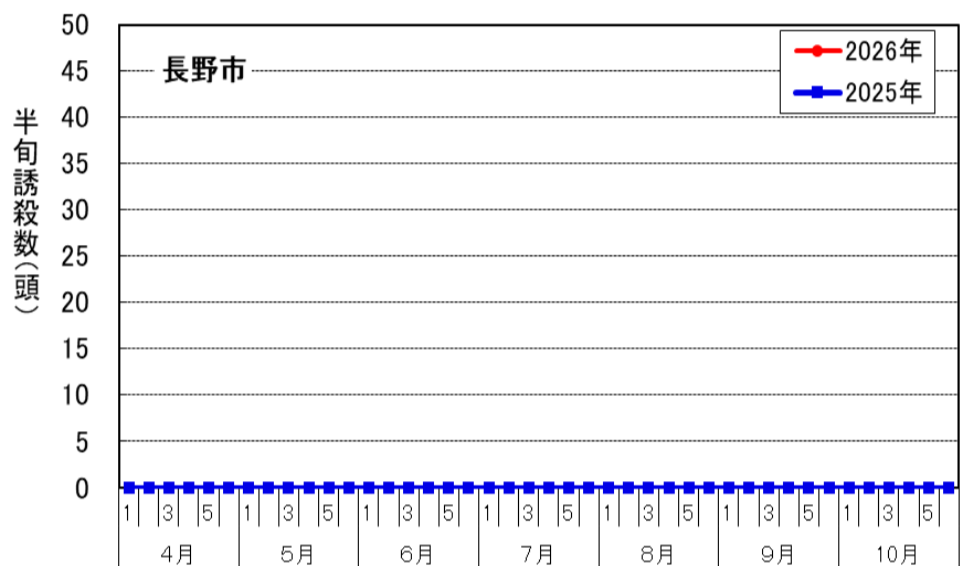
【調査地点】(標高約350m)

- ・須坂市 果樹試験場(ももほ場)
- ・平年は2016年～2025年の平均値

【コメント】

・4月の誘殺頭数は、平年と比べ少なかったが、5月に入り、平年に近い誘殺が観測されている。

○長野市(病害虫防除部)



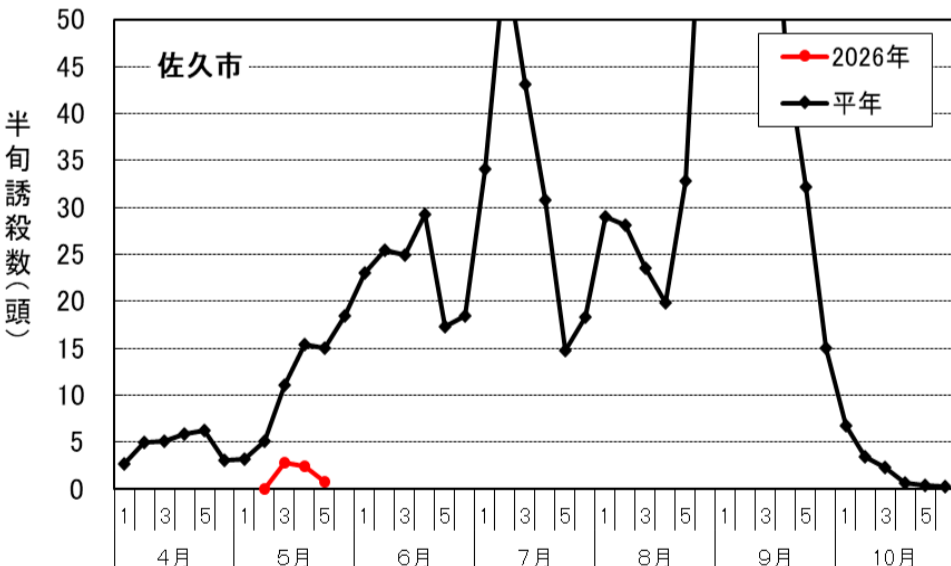
【調査地点】(標高約340m)

- ・長野市(ももほ場)
- ・2024年にほ場を変更したため、平年値はない。

【コメント】

・5月第5半旬までに、誘殺は観測されていない。

○発生予察ほ(佐久市・佐久農業農村支援センター調査協力)



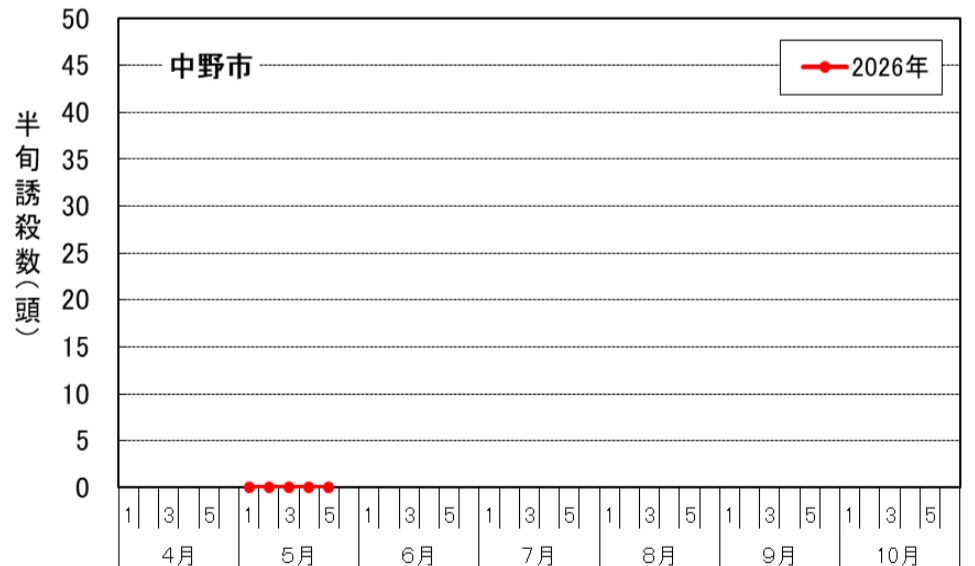
【調査地点】(標高約760m)

- ・佐久市(ももほ場)
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

・越冬世代から第3世代までの発生は平年より少なかった。第4、5世代が誘殺される9月の誘殺頭数は平年比170%程度とやや多かった。その後は平年よりやや早く終息した。

○中野市(※北信農業農村支援センター調査協力)



【調査地点】(標高約340m)

- ・中野市(ももほ場)
- ・2026年に調査地点を変更したため、平年値、前年値なし

【コメント】

・5月から観察を開始。5月第5半旬までに誘殺は観測されていない。